

第143回

岩手朝日テレビ放送番組審議会

議 事 録

(平成22年11月)

2010.11.25

株式会社 岩手朝日テレビ

第143回 放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成 22年 11月 25日 (木) 午前 11時～

2. 開催場所 本社3階 会議室

3. 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 1名

委員長	増子 義孝
副委員長	村田 久
委員	笠川 さゆり
委員	そのだ つくし
委員	弭間 俊則
委員	吉田 政司

欠席委員数 1名

委員	小田島 利昭
----	--------

会社側出席者名

代表取締役社長	富永 健治
専務取締役	辻 一成
報道制作局長	佐々木 貴
報道制作局副部長	鈴木 敦
編成業務局長兼放送番組審議会事務局長	落合 成範
番組審議会事務局	佐藤 清一

4. 議 題

(1) 合評番組

「IATスーパーJチャンネルゆる旅コーナー」

(2) 12月単発番組について

(3) 次回審議会

開 催 日：平成23年1月27日(木)16時～

ホテルメトロポリタン盛岡

合評課題：「ふるさとCM大賞 in IWATE」

放送日時：平成22年12月25日(土)16時00分～17時25分

5. 概 要

- * 富永社長から民放連全国大会の報告と、岩手朝日テレビ15周年記念事業の概要説明。
- * 落合編成局長から11月の視聴率と12月の単発番組について説明
- * 30人31脚が児童数の減少で実施が困難になっている。
- * 合評課題の番組コンセプトが明確でなかった。
- * 番組からしてもっと地元のきっちりした紹介が必要であった。
- * 店の紹介では、電話番号だけでなく場所を略図しめし、興味を持って見ている視聴者が行きたくなる構成が要求される。
- * 番組尺が短いために作り方も難しいと思うがもう少し工夫してほしい。

6. 議事の内容

小林事務局長 それでは、只今より、第 143 回岩手朝日テレビ放送番組審議会を始めます。

 それでは、増子委員長、議事をお願いいたします。

増子委員長 それでは富永社長、一言お願いします。

富永社長 本日もお忙しい中、お集まり頂きましてありがとうございます。

 先月は民放連の全国大会が名古屋で開催され、それに出席したために欠席させていただき大変失礼いたしました。

 I A T は来年開局 15 周年を迎えます。周年期間は 2011 年 4 月から 2012 年 3 月までの 1 年間といたします。

 15 周年プロジェクトを立ち上げ、「番組」・「イベント」・「C I 広報」の各部会で準備をしております。

 15 周年を起爆剤に I A T が県民に最も親しまれる局、好感度 NO. 1 の局になることを目指しています。

 本日お配りしておりますのは、15 周年のキャッチコピーとロゴですが、キャッチコピーは社員および構内で働く人全員に募集をして決めました。

 「いいことごろごろ I A T」がキャッチコピーです。

 赤い箱とボールが、通称「ごろごろ B O X」といい、いろいろな展開を考えております。

 赤いスーパーボールに感謝のメッセージをプリントし、サイコロぐらいの大きさの「ゴロゴロ B O X」に入れたものを、万単位つくり、イベントなどで配布することにしております。

 また、数年前から I A T では、「子育て応援宣言」でいろいろな活動しておりますが、ゴエティのキャラクターをプリントした「K I D S i n T H E C A R」のステッカーも万単位で作り、配布いたします。

 番組では、15 周年特別番組として、「15 歳の原点・孤高の疾走～石川啄木・尾崎豊 時代を超えた夭折(ようせつ)の詩人～」を制作・放送予定であります。内容は、石川啄木・尾崎豊の青春を描いた作品です。来年 2011 年は石川啄木没後 100 年にあたります。「一握の砂」のほかに「15 の心」も代表作です。尾崎豊デビュー曲は「15 の夜」で、来年没後 20 年になります。尾崎豊の死後、発見されたノートには啄木の歌が一首書かれておりました。尾崎豊は啄木に影響された面もありました。

 啄木が夭折したのは 26 歳のときで、奇しくも尾崎豊も 26 歳でどちらも 4 月にこの世を去っております。

明治の天才詩人と現在も若者の心に響き続ける昭和・平成のアーティストの共通点を探りだし、青春期に誰しもが一度は共感させられる二人の心模様を浮き彫りにすることで、「自由」に憧れ、自分という「存在」に苦悩する「十五歳」という時期を見つめたい。というのが企画意図でございます。

そのほか週に一回のミニ番組「ありがとうの手紙」を一年間放送します。

また、イベントは社屋が駅の傍にあるという立地条件を生かし、5月のゴールデンウィークに「GO!GO!ゴエティまつり」を社屋周辺で開催いたします。

10月には「ドラえものの科学みらい展」を開催いたします。

現在、「はやぶさ」カプセルの特別展示をJAXAの公募に申込んでおり、岩手県で唯一もしくは最初に展示が可能な場合は、6月に特別公開展示会を主催開催したいと思っております。今月中に結論が出る予定です。

また、4月1日からHPの企画リニューアルとスタジオのバーチャルシステム導入をします。

スタジオのバーチャルシステムは、現在、夕方のニュースや「楽茶間」では、セットを使用しておりますが、バーチャルスタジオではセットは必要がなくなります仮想の背景ですがデータさえあれば自由に背景や小物をさもそこに実在するがごとく見せることができます。

これにより、スタジオの狭さのハンディもなくなります。岩手県ではNHKを含めてもどこもこのシステムは持っておりません。

以上が開局15周年の概要であります。

地上デジタルテレビ放送に関する浸透度調査、つまりデジタルテレビがどれだけ普及しているのかの調査ですが、春の調査では、岩手県は沖縄県に次ぐ低さで66.7%でしたが、今回の調査では大幅に伸ばし、89.5%で全国29位でした。これは9月の調査結果なので、現在では岩手県でも軽く90%は超えていると思われます。

増子委員長

ありがとうございました。
何かご質問等ございませんか？はやぶさはどこで展示される予定でしょうか。

富永社長

今のところ岩手県民会館で開催予定ですが、JAXAからまだ結果が来ておりません。

増子委員長

わかりました。他に何かご質問等ございますか。
なければ視聴率、単発番組についてお願い致します。

落合編成局長

それでは、11月の視聴率と12月の単発番組についてお話をさせていただきます。

年末が近くなり、4週目あたりから特別番組が多くなってきます。

12月10日からフィギアスケートグランプリファイナル2010が12日まで放送されます。

また12月25日は「ふるさとCM大賞 in IWATE」を放送いたします。今回は34市町村のうち、30市町村が参加致しました。各市町村のアイデアタップアップのCMをぜひお楽しみください。また19日には、「Vドリーム決勝大会」を放送いたします、これは30人31脚を今まで放送していましたが今年度からVドリームに変更し、23歳以下で〇〇でハッピーを考え、各地でコンテストを実施、その中から8チームが全国大会への出場権を獲得し1位を決める番組です。ぜひこちらもお楽しみにしていただきたいと思っております。12日にテレビ朝日で収録があります。県内では11月13日に予選会が盛岡で開催されました。

視聴率ですが、前月より0.6ポイント上がりましたが、4位、プライムではマイナス0.3、プライム2では1位でありました。今回はIBCさんが1位でした。これは世界バレーの中継がありまして、日本対ブラジルの試合では、視聴率が32.4%という数字でした。

またプロ野球ですが、11月2日の3戦は弊社での放送でしたが、7.8%、6日の第6戦はめんこいテレビさんの放送で20.4%、7日の放送第7戦もめんこいテレビさんの放送で20.5%という結果でした。

テレビ岩手さんはIBCさんのあおりを受けて今回は第2位でありました。

増子委員長

ありがとうございました。何かご質問ございますか。

わたくしからですが「30人31脚」は今後なくなってしまうのでしょうか。

落合事務局長

現在、小学校のクラスの児童数が一クラス30人が厳しい状況で、参加できる小学校が少なくなってきています。また、先生や父兄も夏場の練習や授業が終わってからの練習に制限がありなかなか参加できる小学校がないのが現状です。そこで、キー局が若い型の才能を発揮する番組への変更を企画しました。

増子委員長

小学校の先生も、もう少し積極的になってくれると参加できる小学校が多くなると思いますね。

その他、何かご質問等ございませんか。ないようですので、合評課題に移ります。

吉田委員

合評課題としては意見が難しい番組でした。

ゆる旅コーナーとの題名、少ない時間ながらも、ゆったりしながら見ている分には良い番組だと思います。

しかし、「ゆる旅」のコンセプトとして基本がきちんとされていないように感じました。地元の方々にもっと密着し、いろいろな情報を聞き出し、企画するという基本がきちんとされていないように感じました。

わたくしは地元岩手県に生まれ、育ち、この番組で初めて知ったことなどもあり、好感が持てました。次回も録画をして見てみたいと思います。

村田副委員長

山田アナウンサーと丹野アナウンサーの落ち着いた司会進行ぶりは安心してみていただけます。

全体的にバランスの良い内容の構成だと思いますね。天気予報のコーナーでは三陸町の駅につるされた「ころ柿」のシーンは季節感が漂い、話題性がありました。

しかし、「ゆる旅」で紫波町の内容にはこれといった新鮮味がなく「紫波ふる里センター」での取材では変わった神社を紹介していましたが、他にもっと紹介できる場所はなかったのでしょうか。たとえば産直で売られている珍しいものの紹介とか、地元の良さをもっとPRできる何かがなかったのかな。事前に調査していたのでしょうか。内容にパンチがなく男性のアナウンサーが紹介していましたが、女性のアナウンサーのほうがより良かったのではないのでしょうか。

100万円の値がついた「江刺リンゴ」の話題を放送していた内容は、盛岡の「賢治の土」という会社かな？そこが福祉学園に贈ったようですね。

話題性はあるものの、お金の使い方には賛否両論があると思います。見ている視聴者の常識から考えての意見ですが、もっと有意義なお金の使い方があるのでは？と思いました。

コメントしにくい番組でしたね。

弭間委員

「ゆる旅」コーナーの企画意図とすれば非常に素晴らしいと思いました。

紫波町の内容を評価すれば、3つの地域を入れていたがあその時間帯で取材は結構難しいのではないのでしょうか。ストーリー性や関連性が全くリンクしていない。「ひねり染め」がメインでいきなりリンゴが出てきたり、見ている視聴者には何が何だかわからないのではないのでしょうか。

最後のほうでお店の紹介が出ていましたが、電話番号を流すだけではなく、そのお店の場所を略図で紹介するとかもうひとひねり工夫を持たせてみてはどうでしょう。興味を持ってみている人が行きたくなるような紹介をお願いします。

そのだ委員

合評で意見を言う番組として今回はコメントが難しいですね。

「ゆる旅」という情報番組として捉えるには、なんとなく物足りなさを、見ていて感じました。

またアナウンサーの塚本さん。無表情な雰囲気の方が「ゆる旅」の紹介ならこれもいいかな。と思います。

ニュースの一部分であるなら、あんな感じでよいのではないのでしょうかね。

笠川委員

16日の放送と23日の放送を見せていただきました。「ゆる旅」という題名で、旅番組とは少し違うドライブに行く軽い感じで見れば、ニュースの中のワンコーナーの一部としてなら良い番組だと思います。

しかし、あまりゆるすぎで制作すると、手抜きで制作しているように思われそうですね。

お二人のアナウンサーもまじめな方なので、コメントが難しそうに見えて思いました。一言コメントは意外と難しいんだと思いますね。

これはお願いなのですが、番組のなかでデジタルまであと何日というのが出ていますが、今日の日をちを入れてもらえるととっても良いと思います。今日は何日か意識しないで見ている人にはリアリティに思えるでしょうね。

増子委員長

紫波町の住人として、「ゆる旅」という題名でもああのつくり方はゆるすぎな作り方ですね。

住民から見れば、「何これ？」って思いますよ。紫波町でもどうして、あの地域にしたのでしょうかね。

またリンゴの話題のところも、リンゴに日を当てないといっていましたけど間違っています。「葉つみ」というのはリンゴに日を当てるためにするのです。

「ひねり染め」の話題は私も知りませんでした。25年も続けている方なら、さらっと取材するのではなく、もっと掘り下げて詳しく取材して紹介してあげればよかったのではないのでしょうか。もっと踏み込んだ取材をしてあげるべきです。

また、「紫波ふる里センター」は葡萄が一番なんですよ。あそこを拠点にしてトレッキングコースもあるし、もう少しほかに目を向けて取材してほしいかと思いました。もっと良いところがたくさんありますからね。

塚本アナウンサーのコメントがつまらなく感じました。5分番組なので作り方も難しいでしょうが、もう少し工夫をすべきだと思いました。

佐々木報道局長

貴重なご意見をありがとうございました。

今回の番組の狙いは、アポなしのいきなりの取材を基本で行い、意外性を出したいと思い企画したコーナーでした。アナウンサーは持ち回りで行いました。

委員の先生方からの意見をお聞きしますと、行きあたりの内容でも、事前に勉強していかなくては。と思いました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

報道制作局斎藤

このコーナーのコンセプトとして、地域密着型の企画を考えました。アナウンサーもニュースを読むところだけではなく、アナウンサーの個性をこのコーナーで知ってもらいたいと考えました。

地域の情報として、そこに行かなければわからないものをネタにして、他局ではやっていない情報番組を作りたいと考えました。

アナウンサーも佐々木から話が出ましたが、持ち回りで担当を決め、行きあたりで内容が決まるという形をとりましたが、今回改めてこのような企画で、その場で内容が決まる企画の難しさを実感いたしております。

今回いただきましたご指摘された意見などを十分に検討し今後克服できるようにしていきたいと思っております。ありがとうございました。

村田副委員長 行きあたりの企画でも良いのですよ。アナウンサーがいかかに地元の人に話題を聞き出すかがカギなんです。その話題に興味があるという気持ちを相手にいかに伝わるように聞き出すかがポイントですね。素朴な質問でも良いんですよ。

吉田委員 「ゆる旅」は短い時間の番組で、いかに視聴者に言いたいことを伝えられるかですね。短さが故に丁寧に作ることを要求されますね。

笠川委員 行きあたりで作っているようには見えませんでした。予め取材しているような作りに思いました。最後にカードで次の場所が決まるのですから、それまでの時間にいろいろリサーチできると思うのです。

そのだ委員 ダーツの旅のような作りでも良いと思うのです。

増子委員長 このような番組って企画が難しいですね。他に何か質問はございますか。ないようですので、次回の審議会についてお願いします。

落合事務局長 では次回についてですが、12月は休会致し、来年は1月27日午後4時からホテルメトロポリタンニューウィングで開催いたします。合評課題は、今月放送されます「ふるさとCM大賞 in IWATE」を合評課題にしております。是非ご覧になって貴重なご意見をお願いいたします。

増子委員長 それでは終了します。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対してとった措置
ご指摘頂いた点を、今後の番組作りの参考とすることとした。
8. 審議機関の答申または意見の概要の公表
12月2日朝日新聞岩手県版に審議概要を掲載。
系列各局に議事録を送付。
本社受付に議事録を常備、閲覧に供す。
インターネットホームページに掲載。
9. その他の参考事項
特になし
10. 配布資料
 - ◎ 12月単発番組編成予定表
 - ◎ 11月岩手地区視聴率